

## レディー-ミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2025年 4月 1日

三谷建設株式会社 生コン工場  
 福山市赤坂町大字赤坂字鹿田1642-2  
 TEL (代表) 084-951-1254  
 (工場直通) 084-952-0487  
 配合計画者名 河野 秀和

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月10日、9月21日～12月10日左記以外の期間については、備考欄に記述(標準配合)
コンクリートの打込み箇所	使用区分1号

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ又はスラブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項(任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60%
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢	- 日		流動化後のスラブ又はスラブフローの増大量	- cm
空気量	-				

## 使用材料

セメント	生産者名	株式会社トクヤマ	密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> O eq %	-		
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-		
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分 区分 試験方法	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup> 絶乾 表乾	微粒分量の 範囲%
細骨材①	砕砂	大分県津久見市上青江胡麻柄山系	A	モルタルバー法	5以下	2.69	2.62 2.65	3.0±2.0
骨材②	海砂	佐賀県唐津市呼子町小川島海域	A	化学法	5以下	2.20	2.52 2.56	-
材③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材①	砕石1505	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	15-5	6.35	- 2.65	0.5±0.5
骨材②	砕石2010	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	20-10	6.95	- 2.65	0.5±0.5
骨材③	砕石4020	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	40-20	7.95	- 2.65	0.5±0.5
材④	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	シカボツリス 15L	種類	AE減水剤(標準形I種)			Na <sub>2</sub> O eq %	0.9
混和剤②	製品名	-	種類	-			%	-
混和剤③	製品名	-	種類	-			%	-
細骨材の塩化物量	①0.00% ②0.01%		水の種類	上澄み水・地下水		目標スラッグ 固形分率	- %	
回収骨材の使用法	細骨材	-	粗骨材	-	スラッグ水の使用方法	-		

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
275	-	-	157	310	449	-	220	441	441	-	1.925	-	-
水セメント比	57%			水結合材比	-%				細骨材率	41.3%			

備考	骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。	骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②:③	40.0:60.0 20.0:40.0:40.0
----	--	-----------------	--------------------	-----------------------------

修正標準配合として次に示す期間の間、混和剤の単位量のみ変更  
 夏期6月11日～9月20日 C×0.9%使用、冬期12月11日～3月10日 C×0.6%使用

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ <sup>°</sup> 又はスラブ <sup>°</sup> フロー	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号
	普通	24	cm 8	mm 40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスラブ又はスラブフローの増大量	- cm

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10 %

(2) 配合強度(m)  

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 30.0 \text{ N/mm}^2$$
 よって m = 30.0 N/mm<sup>2</sup>

(3) 水セメント比(W/C)  $m = -15.6 + 26.3 \times C/W$   
 $W/C = 26.3 \div (30.0 + 15.6) \times 100 = 57 \% \leq \text{【60\%(上限値)】}$   
 $\therefore W/C = 57 \%$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 157 kg/m<sup>3</sup>

(5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57 \times 100 = 275 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 275 \div 3.04 = 90 \text{ L/m}^3$

(6) 空気量(A) A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m<sup>3</sup>

(7) 細骨材率(s/a) 当工場の実績により s/a = 41.3 %

(8) 単位細骨材量(S)  $S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 708 \times 41.3 \% = 292 \text{ L/m}^3$   
 $S_1 = S_v \times 40.0 \% \times \text{表乾密度} = 292 \times 40.0 \% \times 2.65 = 310 \text{ kg/m}^3$   
 $S_2 = S_v \times 60.0 \% \times \text{表乾密度} = 292 \times 60.0 \% \times 2.56 = 449 \text{ kg/m}^3$

(9) 単位粗骨材量(G)  $G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 584 = 416 \text{ L/m}^3$   
 $G_1 = G_v \times 20.0 \% \times \text{表乾密度} = 416 \times 20.0 \% \times 2.65 = 220 \text{ kg/m}^3$   
 $G_2 = G_v \times 40.0 \% \times \text{表乾密度} = 416 \times 40.0 \% \times 2.65 = 441 \text{ kg/m}^3$   
 $G_3 = G_v \times 40.0 \% \times \text{表乾密度} = 416 \times 40.0 \% \times 2.65 = 441 \text{ kg/m}^3$

(10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad = C \times \text{添加率} = 275 \times 0.700 \% = 1.925 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
275	-	-	157	310	449	-	220	441	441	-	1.925	-	-
水セメント比	57 %		細骨材率	41.3 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②:③			40.0:60.0 20.0:40.0:40.0		

備考

# レディー-ミクストコンクリート配合計画書

No. \_\_\_\_\_

2025年 4月 1日

三谷建設株式会社 生コン工場  
 福山市赤坂町大字赤坂字鹿田1642-2  
 TEL (代表) 084-951-1254  
 (工場直通) 084-952-0487  
 配合計画者名 河野 秀和

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	6月11日～9月20日 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	使用区分1号

## 配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ 又はスラブフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保證する材齢	- 日		流動化後のスラブ又はスラブフローの増大量	- cm
	空気量	-			

## 使 用 材 料

セメント	生産者名	株式会社トクヤマ		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	-			
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> Oeq %	-		
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-	Na <sub>2</sub> Oeq %	-		
骨材	No.	種類	産地 又は 品名	アルカリ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	大分県津久見市上青江胡麻柄山系	A	モルタルバー法	5以下	2.69	2.62	2.65	3.0±2.0
骨材	②	海砂	佐賀県唐津市呼子町小川島海域	A	化学法	5以下	2.20	2.52	2.56	-
材	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	碎石1505	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	15-5	6.35	-	2.65	0.5±0.5
骨材	②	碎石2010	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	20-10	6.95	-	2.65	0.5±0.5
材	③	碎石4020	広島県福山市瀬戸町	A	モルタルバー法	40-20	7.95	-	2.65	0.5±0.5
材	④	-	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	シーカボツリス 15LR		AE減水剤(遅延形 I 種)			Na <sub>2</sub> Oeq %		1.1	
混和剤②	製品名	-		-			Na <sub>2</sub> Oeq %		-	
混和剤③	製品名	-		-			Na <sub>2</sub> Oeq %		-	
細骨材の塩化物量		①0.00% ②0.01%		水の種類	上澄み水・地下水		目標スラッグ 固形分率		- %	
回収骨材の使用方法		細骨材	-	粗骨材	-		スラッグ 水の使用方法		-	

## 配 合 表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
275	-	-	157	310	449	-	220	441	441	-	2.475	-	-	
水セメント比		57 %		水 結 合 材 比			-				細 骨 材 率			41.3 %

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。  
 骨材混合比 (容積混合) 細骨材①:② 40.0:60.0  
 粗骨材①:②:③ 20.0:40.0:40.0

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ <sup>°</sup> 又はスラブ <sup>°</sup> フロー	粗骨材の最大寸法	セメントの種類による記号
	普通	24	cm 8	mm 40	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	舗装コンクリートの強度試験方法	-		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び/又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスラブ又はスラブフローの増大量	- cm

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10 %

(2) 配合強度(m)  

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 30.0 \text{ N/mm}^2$$
 よって m = 30.0 N/mm<sup>2</sup>

(3) 水セメント比(W/C)  $m = -15.6 + 26.3 \times C/W$   
 $W/C = 26.3 \div (30.0 + 15.6) \times 100 = 57 \% \leq \text{【60\%(上限値)】}$   
 $\therefore W/C = 57 \%$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 157 kg/m<sup>3</sup>

(5) 単位セメント量(C)  $C = W \div (W/C) \times 100 = 157 \div 57 \times 100 = 275 \text{ kg/m}^3$   
 $C_v = C \div \text{密度} = 275 \div 3.04 = 90 \text{ L/m}^3$

(6) 空気量(A) A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m<sup>3</sup>

(7) 細骨材率(s/a) 当工場の実績により s/a = 41.3 %

(8) 単位細骨材量(S)  $S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 708 \times 41.3 \% = 292 \text{ L/m}^3$   
 $S_1 = S_v \times 40.0 \% \times \text{表乾密度} = 292 \times 40.0 \% \times 2.65 = 310 \text{ kg/m}^3$   
 $S_2 = S_v \times 60.0 \% \times \text{表乾密度} = 292 \times 60.0 \% \times 2.56 = 449 \text{ kg/m}^3$

(9) 単位粗骨材量(G)  $G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 584 = 416 \text{ L/m}^3$   
 $G_1 = G_v \times 20.0 \% \times \text{表乾密度} = 416 \times 20.0 \% \times 2.65 = 220 \text{ kg/m}^3$   
 $G_2 = G_v \times 40.0 \% \times \text{表乾密度} = 416 \times 40.0 \% \times 2.65 = 441 \text{ kg/m}^3$   
 $G_3 = G_v \times 40.0 \% \times \text{表乾密度} = 416 \times 40.0 \% \times 2.65 = 441 \text{ kg/m}^3$

(10) 単位混和剤量(Ad)  $Ad = C \times \text{添加率} = 275 \times 0.900 \% = 2.475 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
275	-	-	157	310	449	-	220	441	441	-	2.475	-	-
水セメント比	57 %		細骨材率	41.3 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②:③			40.0:60.0 20.0:40.0:40.0		

備考